

NPO 法人 もの忘れカフェの仲間たち **新年度 スタート**



特定非営利活動法人



「もの忘れカフェの仲間たち」の 1年間の活動を振り返って

理事長 藤本 直規

早いもので昨年8月に特定非営利活動法人もの忘れカフェの仲間たちを発足して初めての通常総会を無事5月24日に終えることができました。振り返ると日常に追われてはいたものの、いつも自分たちには NPO もの忘れカフェの仲間たちが心にあると思い、そのことが支えとなり、また励みにもなっていたように感じます。まだまだ、活動自体も未熟であり課題は満載ではありますが、皆さまからのご指導をいただきながら2年目を充実した活動の年にできますよう、心からご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、ここからは NPO もの忘れカフェの仲間たちの中心として活動をしております「仕事の場」についての最近の様子をお伝えさせていただきます。

現在の「仕事の場」は、総勢二十数名が毎週水曜日に集まって内職仕事をしています。請け負った仕事も、新たに今年の3月から診断後の本人・家族へ手渡す、認知症への対応方法の説明資料5点を袋詰めする仕事をエーザイ株式会社から受注しました。その袋の中には、デイサービス「もの忘れカフェ」で高齢の認知症の人が描いた琵琶湖の絵と「認知症と診断を受けたあなたへ〜今は何も言われたくないと思いますが少しずつ前に進みましょう」という何人かの合作の自筆のメッセージカードも入っています。

また、私たちにとても嬉しい最近の出来事は、支える人と支えられる人といった垣根が、いつの間にか無くなっているこの4時間のやり取りを、今年は県内で広げることが出来そうなことです。行政や医師会や社会福祉協議会などが協力して、**県内2番目の「仕事の場」**ができるように、私たち NPO もの忘れカフェの仲間たちも応援したいと思います。今年も、この「仕事の場」の充実とともに、専門職研修や啓発活動にも頑張っていきたいと思いますので、皆様のご支援、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人もの忘れカフェの仲間たち 平成 26 年度通常総会



平成26年5月24日(土)ピアザ淡海207会議室において、平成26年度通常総会が開催されました。

総会の成立要件である、対象人数の過半数を超える出席がありました。 提出案件4件について審議され、すべて原案どおり承認されました。

総会で承認された議案

第1号議案 平成25年度事業報告

第2号議案 平成25年度収支決算承認の件 第3号議案 平成26年度事業計画承認の件





平成25年度 事業報告

- 2. 平成25年度事業実績
 - (1)認知症の人及び発達障がいなどの精神障がいを持つ人等の 就労及び交流、社会参加への支援に関する事業
 - ・「仕事の場」開催回数 50回/年間
 - ・家族等ボランティア参加回数43回/年間 のベ164人
 - ・支援者ボランティア参加回数50回/年間 のベ150人
 - (2)認知症の人に対する医療、介護、福祉等に関する研修及び指導に関する事業
 - ・第1回研修会 開催日時 平成25年12月14日(土) 開催場所 守山駅前コミュニティーホール 参加者数 59名
 - (3) 認知症の理解促進に関する研修及び啓発事業
 - ・滋賀県認知症医療とケアフォーラム

開催日時 平成26年1月12日(日) 開催場所 ピアザ淡海ピアザホール 参加者数 228名

・広報誌の発刊 平成25年10月発刊 82通配布 平成26年2月発刊 72通配布

・カレンダー作成・販売

平成26年カレンダー作成と販売 1冊500円 79冊販売

平成25年度 収支決算

〇収入の部		単位 円)
会費		634,000
寄付金		65,000
助成金		0
事業収益		220,150
その他収益		31
収入合計		919,181
〇支出の部		
事業費	人件費	0
	その他経費	82,716
管理費	人件費	0
	その他経費	463,917
支出合計		546,633
当期余剰金		372,548

平成26年度 事業計画

- (1) 認知症や発達障がいなどの精神障がいを持つ人等の就労及び 交流、社会参加への支援
 - ・滋賀県若年認知症地域ケアモデル事業の実施
 - ・若年認知症の人の就労の場づくり、交流会、心理教育等の 実施
- (2) 認知症の人と家族・関係者に対する相談および支援
 - ・滋賀県若年認知症地域ケアモデル事業の実施
 - ・認知症の人の家族、住民、専門職、行政等に対する面談、 電話相談、現地相談等の実施
- (3) 認知症の人が利用できる介護サービスおよび公的助成制度の拡充
 - ・若年認知症の関係企業、行政機関等に対し、制度拡充のための助言・提言・相談の実施
- (4) 認知症の人に対する医療・介護・福祉等に関する研修及び指 道
 - ・7月19日及び11月15日に、専門職各50名対象に研修会の実施
- (5) 認知症の理解促進に関する研修及び啓発
 - ・5月24日に80名対象に特別講演会の実施
 - ・6月20日、10月20日、来年2月20日に広報誌の発 刊

平成26年度 収支予

〇収入の部		単位 円)
会費		330,000
寄付金		0
助成金		0
事業収益		180,000
その他収益		1,000
収入合計		511,000
〇支出の部		
事業費	人件費	0
	その他経費	376,000
管理費	人件費	0
	その他経費	64,768
支出合計		440,768

平成 26 年度

NPO 法人もの忘れカフェの仲間たち特別講演会

NPO 総会終了後、松本一生先生の特別講演を開催し、9 1名の参加がありました。講演では、先生自身のもの忘れクリニックの診察の例を交えながら、本人の気持ち、家族支援、遺族ケア等についてわかりやすく丁寧にお話し下さいました。



認知症 共感からはじまる理解 ~藤本クリニックに学ぶ多くのこと~

松本診療所ものわすれクリニック院長 松本 一生 先生

本人と家族について、告知の問題や「認知症はなったら終わりの病気ではなく、なってからが勝負だ」ということを伝えていきたいとお話し下さいました。家族支援について、介護家族から「私は介護で辛い思いをした事がない」「私は誰の手も借りずに介護しなければならない」と言われることがあるが、これは介護家族からのサインで、虐待や家族自身の体調を崩してしまうケースにつながってしまうことがあると言われ、介護は「家族が3割で後の7割は様々な支援を得ると良い」「自分だけじゃなく、まわりを頼っていかないと続かない」そのために、適切な情報提供、同じ立場にある者同士の共感、問題解決のためのスキルの向上が大事だということでした。遺族ケアについては、介護者が後悔したこととして、「本人に対して何もしてあげられなかった」という思いを持たれる事があり、遺族になられた後も継続したサポートが必要であること、心が癒えるまでには時間がかかることなどもお話し下さいました。

全体を通して、松本一生先生の雰囲気と語りかけるような話し方に癒されながら、とても楽しく拝聴させていただきました。何より印象的だったのは講演後の質疑応答の時に、身を乗り出すように質問されている方の顔を見て真剣なお顔で聞かれ答えて下さる姿勢でした。私たちも、本人・家族の立場に立ったサポートを今後も大切にしていきたいと改めて感じたご講演で、大変勉強になりました。



講演終了後、松本一生先生を囲んでの親睦会があり、医師・ケアマネージャー・家族など様々な立場の方の参加がありました。率直な意見や想いを話すことができ、先生のお人柄そのままに和やかな雰囲気の中で有意義な時間を過ごさせて頂きました。

□ 松本一生先生の本



喜怒哀楽でわかる 認知症の人のこころ

中央法規出版



認知症家族の こころに寄り添うケア

中央法規出版

"仕事の場"に新しい仕事がやってきた!

「エーザイ株式会社」さんと「NPO もの忘れカフェの仲間たち」との間で、昨年から検討を始めていた新しい仕事が、平成26年3月からスタートしました。

今回の仕事は、全国の医療機関等で配られるお薬の資料や病気についての資料などを封筒に詰めるというものです。

作業の様子

作業工程は…

- 1. 全部で5種類の資料をテーブルに並べる
- 2. 資料を1冊ずつ取り、封筒につめる
- 3. 中身がきちんとそろっているか確認する
- 4. 封筒に入れ、封筒の口を折りシールを貼る
- 5. 出来た封筒を段ボールにつめる



一人で全ての工程をすることは難しく、参加者さん一人ひとりの得意なことで作業を分担しています。 同じ資料が2冊入ってしまうなど失敗はありますが、その時々にボランティアさんやスタッフが伝えてい くことで、みなさん間違わないように意識してくださり、「(中身)合ってる?」と確認しながら作業して います。

エーザイ株式会社さんより

。。。今回の受注にあたり、お手紙をいただきました。。。

この度は NPO 法人「もの忘れカフェの仲間たち」の設立、誠におめでとうございます。会員会社として、心よりお祝い申し上げます。

弊社が認知症の医療とケアに関わるようになってから、早いもので15年近く経過しました。その間、藤本クリニックの皆様をはじめ、多くの方々にご指導賜りましたことを改めて感謝申し上げます。

さてこの度、約1年前から検討しておりました弊社とNPO法人「もの忘れカフェの仲間たち」との新しい事業の契約が整い、業務がスタートしました。

今回の業務内容は、弊社が医療機関等に提供している病気のこと・ケアのこと・お薬のことについての認知症関連資料を一つの封筒に入れるというものです。封筒には、認知症と診断された方とご家族へのメッセージカードも入れられております。このカードのウラ面には認知症の方が描いた琵琶湖の風景画を、オモテ面には「認知症の診断を受けたあなたへ・・・今は何も言われたくないと思いますが少しずつ前に進みましょう」と、認知症の方の直筆の応援メッセージが添えられています。このようなメッセージカードの入った資料はこれまでになく、多くのご施設で高いご評価を頂いております。この資料を、全国の認知症と診断された方にお配りすることで、顔は知らないけれども、同じ悩みや不安を持つ方々と何かで結ばれていると感じて頂ければ幸いです。また、この資料が継続的な医療やケアに繋がり、認知症の方々が前向きで穏やかな人生を送るきっかけになって頂けたらと願っております。

当社は、ヘルスケアの主役が患者様とそのご家族、生活者であると規定し、そのベネフィット向上を通じてビジネスを遂行することを企業理念に掲げ、定款にも記載しております。この理念を一言に集約したものを hhc (ヒューマン・ヘルスケア) と呼び、社員一人ひとりが患者様の傍らに寄り添い、患者様の目線でものを考え、言葉にならない思いを感じ取ることが重要であると考えています。今回、NPO 法人「もの忘れカフェの仲間たち」との新しい事業がスタートできたのはこの hhc 理念が土台となっており、新しい業務と新しい資材によって hhc 理念を具現化できると考えたからでございます。

認知症を取り巻く環境には、まだまだ多くの課題が存在しますが、これからも新薬開発をはじめ、各地域での講演会や認知症の疾患啓発活動等を通じて「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に取り組んで参ります。会員の皆様には変わらぬご指導ご厚誼の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

エーザイ株式会社

した。このメッセージが封筒に詰められ、

今回のエーザイ株式会社より受注した

新しい仕事「袋詰め」の中には、医療機関等で配られるお薬や病気に ついての資料などの他に、認知症と診断された方とご家族へメッセージカードを 入れたいというお話がありました。そのことをデイサービスの参加者の皆さんに説明したとこ ろ、たくさんのメッセージが考えられました。そしてできあがったのが「認知症の診断を受けた あなたへ…今は何も言われたくないと思いますが、少しずつ前に進みましょう」です。裏面は琵 琶湖へ 出かけたときにデッサンした絵を使わせていただきま

> 同じ病気を持つ皆さんに届くことで、顔は知らないけれど、何かでつながって いると感じていただけることを信じて頑張りたいと思っています。



このメッセージカードは、当初 1 万部の注文を受け印刷しました。 全国の認知症と診断された方とご家族へ届けられるということで、 皆で「すごいね!」「たくさんの方に見てもらいたいね!」と感激 しました。

また本年5月には2万部の追加注文をいただきました。カードへの 皆さんの思いをより多くの方々にお届けできたらと思います。

仕事の場のみなさんの 声 ニぇ (**)





参加者さん…

- * 家に居たら何もすることがない。仕事の場に参加して、同じ境遇の人が いて、自分一人じゃない。それがうれしいです。
- * 同じ仲間がいて「浮く」ことなく働けます。
- * 自分が働いて得たお金。社会に認められているし、実感できます。

【 こんなエピソードもありました 】

お給料をもらったその日に、「奥様と Café に行ってコーヒーをご馳走した」 や、「子どもにお小遣いを渡した」との話も聞きました。みなさんのうれしい 気持ちが伝わってきます。



ボランティアさん…

- * 楽しんで来させてもらっています。
- * みなさん前向きで明るい印象です。帰る時にはみなさんから元気をもらっています。
- * 日々の暮らしの中ではなかなか社会と接点が持ちにくいですが、この仕事の場に来ていろいろな人と 関わることで自分自身の勉強にもなっています。

【 こんなこともありました 】

作業中は、ご本人の動きをどこまで手を出さずにお任せするか難しいです。作業の途中で物の場所を変え てしまった時、ご本人さんがわからなくなってしまわれました。普段の会話は元気に話しておられるけれ ど、そういう病気の面に接すると、こちらの接し方や伝え方なども考えないといけないな…と思います。

> 毎週のお仕事お疲れ様です。仕事の場に参加して下さっているみなさまには、冗 談を言い合いながらもクレームややり直しがあってもしっかりそれに向き合っ て下さり、私たちも学ばせていただき元気をもらっています。これからも関わっ て下さる皆さまと協力しながら、この「仕事の場」の時間を大切にしていきたい と思っています。

藤本 寿雄 ふじもと としお

一 はじめに 一

妻がアルツハイマー病と診断されてから、12 年半が経過しました。今日までの間に本当にいるいろなことがありましたが、昨年の初め頃からは穏やかな表情で、時折笑顔を見せながら、元気に過ごせています。今でも毎日散歩に出かけますが、途中で出会う方から「お幸せですね」「うらやましいです」と声をかけていただくことも増えてきました。発病から今日までの妻の様子と、私の気づきや気持ちの持ち方・向かい合い方などを書き綴っていきます。

妻とともに歩む





一 妻のこと・私のこと ―

妻は現在69歳、2年半前には要介護5と認定されました。週4回のデイサービスと月2回のお泊りデイを利用しています。

私はもうすぐ 72 歳。70 歳までは徐々に出社日を減らしながら会社勤めをしていました。 2 年前から、妻のご縁で知り合った藤本クリニックの皆さんと一緒に NPO などの活動に週 1 回参加しています。これは仕事を辞めてからも、私自身が社会との繋がりを保てるように との想いで私からお願いして始めたことです。

― 認知症を取り巻く社会環境の変化 ―

妻が若年性認知症を発症した十数年前と今日では社会環境に大きな変化がありました。アリセプトの登場、介護保険制度の開始、地域包括支援センターの設立等医療・制度が整えられてきたのに加えて、認知症に対する社会の認識が大きく変わりました。例えば、「痴呆症」が「認知症」に、「紙おむつ」が「紙パンツ」に言い換えられ、本人や家族が恥ずかしいという思いから解放されていったのです。まだまだ課題はいっぱいありますが、以前に比べれば本人にとっても介護者にとっても環境は随分改善されたと言えます。

私たちは、介護を一人で抱え込むのではなく、医療や制度・社会環境の変化にうまく対応して、感謝の気持ちは忘れずに多くの皆さんの力を借りることが大切だと思います。

(次回は、症状の推移とその対応について、私の経験をお話ししたいと思います。)



みなさんの疑問・質問にお答えするコーナーです!

「これどういう意味?」「こんなこと教えて!」などありましたら、どしどしお寄せ下さい。

Q. NPOの名称にもなっている「もの忘れカフェ」って

A. 藤本クリニックが2004年より新しいデイサービスユニットとして始めた"若年軽度社会参加型認知症専用デイサービス"の通称です。もの忘れのことを茶飲み話のように気軽に話し合える場所という意味で名付けました。

「もの忘れカフェ」では、参加者さんが自分たちで決めた活動を行います。 その活動は社会とつながりを持つことも考えられ、様々な工夫をすることで、 若年から高齢者まで、軽度から高度までの人が参加し、現在まで受け継がれ



第 15 回日本認知症ケア学会大会に行ってきました!

5月31日~6月1日

東京国際フォーラム

5月31日(土)から6月1日(日)東京国際フォーラムにて「日本 認知症ケア学会」が行われ、藤本先生をはじめスタッフ11名で東京 へ行って来ました。31日には私たちが行っている「若年認知症の人 たちが参加する『仕事の場』作りについて」などを発表させていただき ました。全国から注目されている発表でしたが大成功でした。 みんなで頑張って練習した甲斐がありました!!

> 初めての発表でとても緊張しましたが、日々参加者の方やボランティアさ んと一緒に頑張っている「仕事の場」の様子がより多くの方に伝えられる ようにと思いました。こうした仕事の場が色々な場所に出来ると良いなと 思いますので、私たちも皆さんと一緒にこれからも頑張っていきたいです。





会場での発表はとても緊張しましたが、先輩スタッフが近くで見守ってい て下さったので安心して発表ができました。「仕事の場」について発表する にあたって、改めて開始時から今後について知ったり考える機会になり良 かったです。これからも、仕事の場に参加している皆さんと一緒に考えた り取り組んで、この場を色々な場所に広げていくために頑張りたいと思い ます。





最新刊

若年認知症の人の"仕事の場づくり"Q &A

Q&A 26 項目と関係者の声を掲載した、わかりやすい"仕事の場づくり"の手 引書

介護保険サービスへのスムーズな移行が最大の目的ともいえる「仕事の場」で、 「働くこと」「仕事」を真ん中に、本人、家族、専門職、地域がつながった! 「士ラスーし」「士ラとねてーし」の信担を述るで

(カロナノいかもがわ UD











* 研修会のご案内 *

NPO「もの忘れカフェの仲間たち」第2回研修会を、下記のとおり開催いたします。 今回のテーマは「認知症の人を支える家族支援」です。

講義やグループワークを中心に具体的な家族支援について一緒に考えましょう!

日 時 : 平成26年7月19日(土)9:30~12:00 (受

付 9:15~)

会 場 : ピアザ淡海 207 会議室

講師: 藤本クリニック 藤本直規・ 奥村典子

参加費 : 一般 2,000 円 NPO 会員 1,000 円

―詳しくは藤本クリニックまでお問い合わせくださいー

常新年度会員募集のお知らせ畿

平素はNPO法人「もの忘れカフェの仲間たち」の活動に、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。 4月より新年度が始まりました。会員の皆様方には新年度も引き続きご入会賜りますようお願い申し上げます。また、新規ご入会も随時募集しております。 みなさまのお気持ちに応えられるよう、これからも頑張ってまいります。応援よろしくお願いいたします。



正会員 会費 3,000円(年間) 賛助会員 会費 10,000円 1口以上(年間) 詳しくは 藤本クリニックまで



今後の予定

7月19日(土)

NPO 研修会 (ピアザ淡海207会議室) 「認知症の人を支える家族支援」

11月15日(土)

NPO 研修会(予定)

1月25日(日)

全国若年認知症フォーラム(予定)

スノードロップのつぶやき

穢れなきスノードロップよ勇気ある春の先駆者よそしてもの静かに、過ぎ去っていく年月を観察するものよ!(W・ワーズワース「スノードロップに」よ

私たち「NPOもの忘れカフェの仲間たち」のシンボルマークであり、この通信のタイトルにもなっているスノードロップ。花言葉は『希望』です。スノードロップは、毎年2月のはじめに待ちに待った春の知らせを届けてくれる花です。ワーズワースの詩には、そんな他の花に先駆けて咲く勇気が語られているように思いました。

この詩に触れて、私たちも《勇気ある春の先駆者》 のように、力強くここに根を張って、たくさんの 花をつけたいと感じています。



. 編集後記 ~MONOWASU .

NPO 総会、松本一生先生の特別講演、認知症ケア学会大会と慌ただしかった5月が終わり、雨音とともに少し穏やかな6月を迎えております。仕事の場では新しい仕事が始まり、またケア学会でそのことが発表できたことをとてもうれしく思っています。新しい仕事が始まったことで、参加者のみなさんに半年で一回だった報酬が一か月の報酬としてお渡しできました。ご本人たちがとても喜んでおられた事は言うまでもありませんが、私たちスタッフも「やったね!」「これからも頑張るぞ!」と口々に喜びあいました。新年度がスタートし、また一歩進化した「もの忘れカフェの仲間たち」を目指し頑張りたいと思います。

発行者: NPOもの忘れカフェの仲間たち 滋賀県守山市梅田町 2-1-303 Tel 077-582-6032 発行日: 平成 26 年 6 月 20 日